

校長室から

第17号

二宮金次郎の像について ~その9~

その後、本校の金次郎像がどのような時代を生きてきたのか、沿革誌を読み進めました。

「一、昭和二十年八月十四日 終戦ノ詔書下ル」

(翌日の昭和20年8月15日、玉音放送(昭和天皇による終戦の詔書の朗読放送)により、日本の降伏が国民に公表された)

「昭和二十一年一月十五日 御眞影奉還」

「昭和二十一年六月十八日 其の筋の指示によって奉安殿取除いた。」とあります。

そして、

「一、三十二年五月二日 二宮金次郎銅像除幕式を挙行す。故斎藤健次郎氏一周忌供養に故人と生前より当校校長阿部朝継氏と約束せるものが喪主斎藤ジョウさんにより実現したものである。」とあります。

現在本校にある金次郎像は昭和16年生まれの初代ではなく、昭和32年生まれの2代目だったことが判りました。

それでは、初代の金次郎像はいつどこへ行ってしまったのでしょうか。建立されて、間もなく戦地へと出征していったのでしょうか。それとも戦後奉安殿とともに廃棄されたのでしょうか。現在本校にある資料からは読み取ることができませんでした。初代の台座が残っていたということから、出征したと考えるのが自然ではあります。ただ、取り壊された奉安殿の基礎部分も30数年間残っていました。

先日、昭和7年生まれの本校の卒業生の方から「はっきりと覚えてはいないが金次郎さんは1年くらいは居たような気がする。奉安殿のことは今でもはっきりと覚えている」というお話をうかがいました。初代の金次郎さんがいつどこへ行ったのかについて、ご存知の方がいらっしゃいましたら、是非情報をお寄せください。

ここまで二宮金治郎の像について記してきましたが、途中文献を調べていくうちに尊徳についても様々な評価があることがわかりました。歴史について考えるとき、事実の一つですが、その事実に対して複数の認識があつて当然です。間違いなく言えることは、国策に利用されたことで時代に翻弄された金次郎像ですが、このことで二宮尊徳の業績が、決して消えたり色褪せたりするものではない、ということです。

ずいぶんと長い寄り道なりましたが、次号からは「本校の開校はいつなのか？」について記述してまいります。

(校長 池原 英二)



58度目の冬を迎えた2代目